

平成30年度事業報告書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

1. バドミントンの普及及び指導

(1) ジュニアに対する普及・指導活動の充実と社会人愛好者の組織づくりへの助成活動を進め、会員の拡大を図り300, 135名の会員を得て、30万人の目標を達成した。

(2) 第27回全国小学生バドミントン選手権大会

12月24日から12月28日までの5日間、東京都エスフォルタアリーナ八王子で役員延920名の指導により、男子の部団体49団体、女子の部団体49団体、6年生以下男子単43名、同複35組、女子単43名、同複35組、5年生以下男子単37名、同複35組、女子単37名、同複35組、4年生以下男子単35名、同複35組、女子単35名、同複35組、実人員650名の参加で開催。優勝者は男子団体神奈川県、女子団体千葉県、6年生以下男子単松川健大(神奈川県)、同複森蒼介・大森愛叶組(愛媛県)、同女子単樋口吹羽(徳島県)、同複吉田明永・保谷芽依組(千葉県)、5年生以下男子単澤田修志(北北海道)、同複根本舜生・岡部翔組(神奈川県)、同女子単東谷悠妃(北北海道)、同複戸上凜・石井空組(岡山県)、4年生以下男子単山城政人(新潟県)、同複鈴木大翔・中村陸人組(茨城県)、同女子単大石夢陽(福岡県)、同複縣明日香・藤井詩組(愛知県)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(3) 第19回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

8月10日から8月12日までの3日間、熊本県八代市、八代市総合体育館ほか1会場で、役員延985名の指導により、男子Aグループ62名、同Bグループ53名、同Cグループ49名、女子Aグループ62名、同Bグループ53名、同Cグループ49名、実人員328名の参加で開催。優勝者は男子Aグループ齊藤礼(福岡県)、同Bグループ田上幹太(熊本県)、同Cグループ篠原康輔(愛媛県)、女子Aグループ横内美音(山梨県)、同Bグループ女子溝尾花奈(南北海道)、同Cグループ板橋ゆい(宮城県)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(4) 第17回日本バドミントンジュニアグランプリ2018

11月23日から11月25日までの3日間、一般財団法人地域活性化センターの支援を受け、栃木県宇都宮市体育館および宇都宮市清原体育館において、大会役員・競技役員・補助員延280名体制のもと、男子の部37団体、女子の部37団体、実人員433名の参加で開催。優勝者は男子団体北北海道、女子団体埼玉県で、全国各都道府県ジュニア選手育成の一貫指導体制の確立促進を図るとともに、ジュニア層への普及に大きな成果を収めた。

(5) 第34回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

7月27日から7月30日までの4日間、長岡京市西山公園体育館で、役員延698名の指導により、男子の部35都道府県48チーム、女子の部40都道府県48チーム、実人員907名の参加で開催。優勝者は男子の部Dream. Jr(福井県)、女子の部小平ジュニア(東京都)で、少年少女相互の交流と体力の増強と健全で豊かなスポーツの育成に効果を挙げた。

(6)第48回全国中学校バドミントン大会

8月18日から8月21日までの4日間、維新百年記念公園スポーツ文化センター(山口県山口市)で、役員延347名の指導により学校対抗男子24校、女子24校、男子単36名、同複36組、女子単36名、同複36組、実人員452名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子猪苗代町立猪苗代中学校(福島県)、同女子猪苗代町立猪苗代中学校(福島県)、男子単武井凜生(福島県猪苗代町立猪苗代中学校)、同複吉田翼・池田真那斗組(福島県猪苗代町立猪苗代中学校)、女子単杉山薫(福島県猪苗代町立猪苗代中学校)、同複小野涼奈・田部真唯組(福島県猪苗代町立猪苗代中学校)で、全国中体連との共催で中学生に正しい技術を習得させることができた。

(7)第19回全日本中学生バドミントン選手権大会

平成31年3月26日(火)から3月28日(木)までの3日間、津市産業・スポーツセンターで、役員190名の指導により、都道府県対抗男女混合団体49チーム、実人員518名の参加で開催。福島県が優勝し、中学生の健全育成に寄与することができた。

(8)第47回全国高等学校選抜バドミントン大会

平成31年3月23日から3月27日までの5日間、ひたちなか市総合運動公園総合体育館他1会場で、役員延1216名の指導により、学校対抗男子33校、女子34校、実人員504名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子浪岡高校(青森)、同女子埼玉栄高校(埼玉)、男子単奈良岡功大(浪岡高校)、同複奈良岡功大・武藤映樹(浪岡高校)、女子単郡司莉子(八代白百合学園高校)、同複大竹望月・高橋美優組(青森山田高校)で、それぞれ高校生の交流と技術の習得に大きな成果を収めた。また、地区予選会を支援した。

(9)第36回全日本レディースバドミントン選手権大会

7月19日から7月22日までの4日間、都道府県対抗の部は、島津アリーナ(京都府立体育館)で、43都道府県44チーム、実人員431名の参加で開催。優勝者は大阪府。また、クラブ対抗の部は同日、ハンナリーズアリーナ(京都市立体育館)で、40都道府県53チーム、522名の参加で開催。宝塚(兵庫県)が優勝し、レディースへの普及と正しい競技の習得に大きな成果を収めた。役員延626名。

(10)第13回全日本レディース(個人戦)バドミントン競技大会

12月14日から12月16日までの3日間、熊本市総合体育館他1会場で、ダブルス個人戦で実施し、43都道府県、実人員872名の参加で開催。優勝者は1部上田恵里加・岩永伊代組(熊本)、2部Aブロック矢島菜由子・須藤詩織組(群馬)、2部Bブロック松隈敦子・山田雅子組(佐賀)、2部Cブロック常井理佐・岡田順子組(大阪)、2部Dブロック畑末絵理香・稲田百合組(兵庫)、2部Eブロック阿久根恭子・小林絵美組(福岡)、2部Fブロック高垣尚美・大東恵里子組(兵庫)、2部Gブロック小原真澄・佐藤忍組(宮城)、2部Hブロック井下由紀子・松原春美組(広島)、2部Jブロック米澤千江美・伊嶋恵子組(千葉)、2部Kブロック宮崎美江子・田倉テイ子組(東京)、2部Lブロック土庵清子・石井伸子組(奈良/山口)、2部Mブロック山本しず子・中村聡子組(愛知/高知)、2部Nブロック村田勝子・平野孝子組(千葉/東京)でレディースへの普及と発展に成果を収めた。役員延459名。

(11)用器具検査並びに認定

厳正なる検査の結果、第1種水鳥シャトル29種(18社)、第2種水鳥シャトル10種(10社)、ラインテープ5種(4社)、ラケット169種(19社)、検定工場18社、ネット28種(8社)、ストリングス46種(5社)、シューズ88種(12社)、ウェア696種(18社)を認定し、愛好者の使用の便を図った。

(12)競技規則書等発行

各都道府県協会並びに7連盟で開催する審判講習会・検定会等でルール周知徹底を図るため2018-2019年競技規則(赤本)・ルール教本(2018年版3級・準3級公認審判員資格検定ルール教本「緑本」)を発行し、常に新しい競技規則等の正確な資料を提出し、正しいルールに基づく円滑な試合運営と公認審判員有資格者の増員と資質の向上を図った。

(13)広報活動

HPを活用しての迅速かつ正確な情報公開と広報活動及びマスメディアに対して適時な情報、資料等を積極的に提供することにより、テレビ、新聞等の露出数が増大しPR効果を拡大し、バドミントン競技をより多くの人に理解を広めた。また、ジュニア選手層の開発に向けて、告知ポスター等を作製、全国に配布し、会員、愛好者の拡大を図った。

(14)連盟に対する助成

学生連盟、高体連、中体連、小学生連盟、教職員連盟、レディース連盟、実業団連盟の7連盟の活動に対して、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(15)会員普及

次世代会員登録システムを開発し、全国の都道府県協会の会員登録業務の利便性の向上を図った。

(16)小・中・高一貫指導

「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高の一貫指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を実施した。

(17)バドミントン・アーカイブの収集・整理・公開

本会が設立して以来の歴史やバドミントンそれ自体の歴史を残すことにより、本会の存在意義、バドミントンの価値を多くの人々と共有し、バドミントンの発展に寄与するため、日本代表女子選手の第1期黄金時代に活躍された中山紀子さん、湯木博恵さん、梅野尾悦子さん、相沢マチ子さんのパネル及びVTRを作成し、ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン及びファン感謝祭の各会場において展示し、公開した。

(18)バドミントン・レガシーの創出と継承

我が国のバドミントンの持続的発展を可能にする多様なバドミントン活動を、バドミントン・レガシーとして創出し、整備し、継承するため、バドミントン未来創造アカデミーを創設し9名の青年の人材育成を行った。また、その内の4人をイングランドに派遣し、バドミントンを育て、発展させた理念・文化を直接体験させた。

(19) 東京 2020 応援プログラムの実施

2020年東京オリンピックの機運醸成と、大会後のレガシー創出に向けて大会組織委員会が行なっている「東京 2020 参画プログラム」のバドミントン版プログラムを、本会が開催する中央会場あるいは都道府県協会が開催する地域会場において、あらかじめ設定したプログラム(シャトルアート、ラリーラリー)あるいは地域ごとの独自プログラムを実施し、日本全国のバドミントン関係者が繋がり、オリンピックに向けてのムーブメントを形成した。また、このことを通じて都道府県協会事務局の安定運営に向けた支援を行った。

(20) バドミントンフェスタ2019

第1回目となるファン感謝祭を11月4日(日)に東京2020オリンピックバドミントン競技会場となる武蔵野の森総合スポーツプラザで開催。来場された1,100人のバドミントンファンへ日頃の応援の感謝の意を伝えるとともに、バドミントンの普及発展に寄与した。

(21) 第1回NBAフォーラム

平成31年3月9日(土)にザ・プリンスパークタワー東京で開催。日本バドミントン界を取り巻く状況について、加盟団体と意思疎通を図り、今後の加盟団体との協力体制をより一層深めることができた。

2. バドミントンに関する審判員及び指導員の養成及び資格の認定

(1) 公認レフェリー資格者の本会第1種大会への派遣

公認A級・B級のレフェリー有資格者を平成30年度実施の全ての第1種大会(24大会)にレフェリー及びディピュティレフェリーとして派遣し、大会運営全般の統一性と公正化を図った。

(2) 公認レフェリー資格者の資質の向上

公認レフェリー間における競技規則等の諸規程に関する統一見解と大会の公正さの維持を図るため、全国公認レフェリー研修会が全国から56名のレフェリーの参加を得て、10月20・21日東京都にて開催された。今回が初めての開催で2日間という短い期間であったが、公認レフェリーが一堂に会して討議の場を持てたことは非常に有意義であった。

(3) 公認レフェリー資格検定会開催

大会における競技規則の統一と大会の公正さを図り、大会全般にわたる運営及び審判団の指導、管理を目的として設けられた公認レフェリー制度に基づき、A級レフェリー資格検定会を2月9日～11日(東京都にて、参加者5名)、B級レフェリー資格検定会を11月17・18日(東京都にて、参加者6名)に開催した。

(4) 公認審判員養成講習会開催

審判員技術の向上と正しい競技規則の習得により円滑な大会運営を図るため公認審判員制度を設け、1級審判員検定会は本会が主催し、2級、3級、準3級審判員資格検定会は、地区及び都道府県、7連盟が主催し開催された。検定会は本会公認審判員資格審査認定委員が担当した。

(5) 公認審判員の資格認定登録

公認審判員資格登録規程による学科試験、実技試験の合格者を各級公認審判員に認定し、登録させ、各地で実施する大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営を図った。公認審判員資格登録規程に定

める審判員資格検定に合格した者は、1級30名、2級71名、3級4,443名、準3級8,643名、準3級から3級への移行者は886名で、それぞれが資格登録も完了した。また同規程により、1級226名、2級390名、3級9,397名の有資格者が資格更新登録をした。こうした正しい競技規則の習得や審判技術のマスターは、更なるバドミントン技術の資質向上に役立ち、また、全国の数々の大会においてその審判能力は、大会運営において大きな効果を挙げた。

(6) 国際審判員・国際線審の研修及び活動

国際審判員資格既得者の研修・活動として国際審判員相互派遣交流大会であるチャーニーズタイペイオープン、韓国オープン、フランスオープン、香港オープンに国際審判員を派遣した。また、BWF、Badminton Asiaの指名により国際レフェリー、国際審判員、国際線審を多数の国際大会へ派遣した。これらの派遣事業は国際交流に大いに貢献した。さらに BA 国際審判員試験、BWF 国際審判員試験にも3名を派遣し、全員が合格した。

(7) 公認スポーツ指導者養成講習会

公益財団法人日本スポーツ協会と共催して、公認コーチ(バドミントン2級)の養成講習会を10月に前期4日間(静岡県総合研修所32名)、平成31年1月に後期4日間(埼玉県国立女性教育会館32名)で開催した。

また、公認コーチ33名(内過年度分7名)が専門科目検定試験に合格したことを公益財団法人日本スポーツ協会へ報告した。また、各都道府県バドミントン協会が各々の体育協会と共催で実施する公認スポーツ指導者養成講習会は、公認上級指導員(バドミントン3級)を北海道・千葉県・静岡県・愛知県・奈良県・宮崎県、公認指導員(バドミントン4級)を北海道ほか計9県で開催した。

(8) 公認スポーツ指導者の資格更新のための義務研修会

指導者資格認定制度に登録された各スポーツ指導者の登録更新のために、4年間に1回受けなければならない義務研修会を実施した。公認上級コーチ、コーチの義務研修会は、8月(大阪体育大学30名2日間)および平成31年2月(味の素ナショナルトレーニングセンター38名2日間)に開催した。最新の情報を得ることや、コーチとしての資質の向上を図りながらコーチ間の連帯を深めた。また、31都道府県協会(延41回)で、公認上級指導員・指導員のための義務研修会が実施され、指導者としての資質の向上を図った。なお、公認上級コーチ、コーチの義務研修会受講者および各都道府県バドミントン協会から報告のあった公認上級指導員、指導員の義務研修会受講者名を、公益財団法人日本スポーツ協会へ報告した。

(9) 全国巡回バドミントン講習会

全国でのバドミンントンのさらなる普及とバドミンントンの価値を高めるために、バドミンントンをしたことのない人をバドミンントンへ誘うとともに、指導者の質の向上を目指し、栃木県、徳島県、埼玉県、岩手県、静岡県、新潟県、大阪府の7つの会場で実施した。

3. 公益財団法人日本スポーツ協会、世界バドミントン連盟(BWF)及びアジアバドミントン連盟(Badminton Asia)への加盟及び代表者派遣

(1) 公益財団法人日本スポーツ協会等への代表者派遣

公益財団法人日本スポーツ協会、JOCへ代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、バドミントン競技の発展を図った。

(2) BWF (世界バドミントン連盟) 総会への代表者派遣

銭谷欽治(専務理事)・高橋英夫(国際部長)・近藤繁(国際部員)を5月19日に、バンコク(タイ)で開催されたBWF年次総会に派遣し、国際スポーツ振興のため協調し、世界バドミントン競技の発展を図った。

(3) Badminton Asia (アジアバドミントン連盟) 総会等への代表者派遣

銭谷欽治(専務理事)・高橋英夫(国際部長)・近藤繁(国際部員)を5月17日に、バンコク(タイ)で開催されたBadminton Asia年次総会に派遣し、アジアスポーツ振興のため協調し、アジアバドミントン競技の発展を図った。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

(1) 第68回全日本実業団バドミントン選手権大会

6月13日から6月17日までの5日間、キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター他3会場で、男子団体172団体、女子団体42団体、実人員2,800名の参加で開催。優勝者は男子団体トナミ運輸(富山県)、女子団体日本ユニシス(東京都)、競技役員延610名。

(2) 第69回全国高等学校バドミントン選手権大会

平成30年8月4日から8月9日までの6日間、静岡県浜松市浜松アリーナ他2会場で、男子団体50団体、女子団体50団体、男子単98名、同複98組、女子単98名、同複98組、実人員1000名の参加で開催。優勝者は男子団体埼玉栄高校(埼玉県)、女子団体ふたば未来学園高校(福島県)、男子単緑川大輝(埼玉栄高校)、同複中山裕貴・緑川大輝組(埼玉栄高校)、女子単水井ひらり(ふたば未来学園高校)、同複齋藤夏・吉田瑠実組(埼玉栄高校)、競技役員延900名。

(3) 第6回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会

8月10日から8月11日までの両日、日本体育大学健志台キャンパス米本記念体育館で、実人員144名の参加で開催。優勝者は緒方友哉(日本大学)・安田美空(筑波大学)組、競技役員延46名。

(4) 第57回全日本教職員バドミントン選手権大会

8月11日から8月15日までの5日間、一宮市総合体育館で、一般男子団体19団体、一般女子団体10団体、成壮年男子団体15団体、成壮年女子団体7団体、一般男子単116名、同複71組、一般女子単29名、同複32組、30才以上男子単51名、同複29組、30才以上女子単10名、同複9組、40才以上男子単48名、同複35組、40才以上女子単8名、同複8組、50才以上男子単56名、同複38組、50才以上女子単16名、同複14組、60才以上男子単32名、同複19組、65才以上男子単16名、同複8組、70才以上男子単12名、同複5組、の参加で開催。優勝者は男子団体愛鳥取県、女子団体愛知県A、男子成壮年団体愛知県A、女子成壮年団体東京都、一般男子単黒田匠馬(岐阜県)、同複黒田匠馬・大橋擁太郎組(岐阜県)、一般女子単山本しずか(兵庫県)、同複山本しずか・野村このみ組(兵庫件)、30才以上男子単青山真(茨城県)、同複佐藤伴哉・佐藤裕樹組(青森県)、30才以上女子寺田加奈(福島県)、同複糠澤每子・大金依香組(福島県)、40才以上男子単神保一寿(山形県)、同複中原学・小賀元裕組(高知県)、40才以上女子単木下八枝子(熊本県)、同複橋本仁美・藤原由紀組(香川県)、50才以上男子単大浦恒一郎(長崎県)、同複高嶋敬治・小田知則組(滋賀県)、50才以上女子単橋本仁美(香川県)、同複早田彰子・前田美恵子組(熊本県)、60才以上男子単福田光博(山口県)、同複松下芳朗・田代昌昭組(熊本県)、65才以上男子単藤森龍二(岡山県)、同複近藤良二・佐藤

正組(東京都)、70才以上男子単廣田彰(宮崎県)、同複平井克英・水上英二組(東京都)、競技役員延847名。

(5)第20回全国高等学校定時制通信制バドミントン大会

8月16日から8月19日までの4日間神奈川県小田原市総合文化体育館(小田原アリーナ)で、男子団体47団体、女子団体44団体、男子単94名、女子単98名、実人員536名の参加で開催。優勝者は男子団体東京都、女子団体神奈川県A、男子久米田聖夜(東京都)、女子単本多可奈(福岡県)、競技役員延264名。

(6)第42回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会

8月25日・26日両日、牧園みやまの森運動公園総合体育館「牧園アリーナ」で、男子団体12校、女子団体10校、男子単16名、同複16組、女子単16名、同複16組、実人員179名の参加で開催。優勝者は男子団体北九州高専、女子団体北九州高専、男子単國分蓮太(北九州高専)、同複室屋鼓太郎・國分蓮太組(北九州高専)、女子単森本暁音(熊本高専(八代))、同複楠城由佳・楠城奈央組(北九州高専)、競技役員延243名。

(7)第61回全日本社会人バドミントン選手権大会

8月31日から9月5日までの6日間、高知県南国市立スポーツセンター他1会場で、男子単388名、同複572組、女子単99名、同複242組、同混合複326組、実人員965名の参加で開催。優勝者は男子単上田拓馬(東京)、同複保木卓朗・小林優吾組(富山)、女子単鈴木温子(東京)、同複志田千陽・松山奈未組(熊本)、混合複小林優吾・志田千陽組(富山・熊本)、競技役員延976名。

(8)第37回全日本ジュニアバドミントン選手権大会

9月14日から9月17日までの4日間、ホワイトリング(長野市真島総合スポーツアリーナ)で、ジュニアの部男子単72名、同複53組、女子単71名、同複55組、ジュニア新人の部男子単112名、同女子単112名、実人員475名の参加で開催。優勝者は男子単秦野陸(埼玉)、同複熊谷翔・藤澤佳史組(宮城)、女子単郡司莉子(熊本)、同複鈴木陽向・大澤佳歩組(埼玉)、新人男子単齋藤駿(福島)、同女子単吉川天乃(岡山)、競技役員延431名。

(9)バドミントンS/Jリーグ2018

12月8日から平成31年2月17日まで、高岡市民体育館他15会場で、男子10チーム、女子10チーム、参加選手約180名で開催。優勝者は男子トナミ運輸(富山)、女子再春館製菓所(熊本)、競技役員延約2,000名。

(10)バドミントンS/JリーグⅡ2018

11月16日から18日までの3日間、石岡運動公園体育館で、男子8チーム、女子8チーム、参加選手約150名で開催。優勝者は男子東海興業(愛知)、広島ガス(広島)、競技役員延500名。

(11)第69回全日本学生バドミントン選手権大会

10月12日から10月18日までの7日間、ハンナリーズアリーナ他で、男子団体32団体、女子団体32団体、男子単96名、同複96組、女子単96名、同複96組、実人員747名の参加で開催。優勝者は男子団早稲田大学、女子団体筑波大学、男子単古賀穂(早稲田大学)、同複小野寺雅之・大林拓真組(早稲田大学)、女子単香山美帆(筑波大学)、同複上杉夏美・鈴木成美組(明治大学)、競技役員延302名。

(12) 第35回全日本シニアバドミントン選手権大会

11月22日から11月25日までの4日間、ウイングアリーナ刈谷他8会場で、30才以上男子単150名、同複136組、30才以上女子単29名、同複68組、30才以上混合複87組、35才以上男子単139名、同複105組、35才以上女子単41名、同複52組、35才以上混合複72組、40才以上男子単143名、同複136組、40才以上女子単47名、同複89組、40才以上混合複102組、45才以上男子単136名、同複120組、45才以上女子単55名、同複109組、45才以上混合複119組、50才以上男子単123名、同複110組、50才以上女子単62名、同複109組、50才以上混合複97組、55才以上男子単112名、同複101組、55才以上女子単50名、同複92組、55才以上混合複89組、60才以上男子単94名、同複90組、60才以上女子単35名、同複54組、60才以上混合複72組、65才以上男子単79名、同複76組、65才以上女子単24名、同複51組、65才以上混合複50組、70才以上男子単53名、同複48組、70才以上女子単24名、同複36組、70才以上混合複32組、75才以上男子単35名、同複24組、75才以上女子単13名、同複16組、75才以上混合複19組、80才以上男子単9名、同複6組、80才以上女子単3名、同複6組、80才以上混合複4組、延べ6210名の参加で開催。

30才以上男子単中里好貴(栃木)、同複毛利正和・本間裕樹組(新潟)、30才以上女子単梅津知恵(岐阜)、同複横関彩・大滝綾組(千葉・愛知)、30才以上混合複小林徹太郎・木村綾組(北海道・愛知)、35才以上男子単花本大地(鳥取)、同複野村和弘・藤本ホセマリ組(千葉・東京)、35才以上女子単上山さやか(鹿児島)、同複大石瞳・松本里衣組(福岡)、35才以上混合複篠岡伸明・北條ともみ組(神奈川)、40才以上男子単藤本ホセマリ(東京)、同複松本雅之・栄代正男組(石川)、40才以上女子単松田奈緒子(石川)、同複坂田珠美・吉川美希子組(石川)、40才以上混合複磯貝謙太郎・百丸恭子組(愛知)、45才以上男子単町田文彦(東京)、同複濱路圭和・久井伸一組(神奈川)、45才以上女子単木村和美(京都)、同複中津位江・物井あゆみ組(神奈川)、45才以上混合複田村隆・紀星千春組(北海道)、50才以上男子単青木真也(千葉)、同複星明彦・気谷篤人組(石川)、50才以上女子単櫛山久美子(北海道)、同複櫛山久美子・佐藤律子組(北海道・青森)、50才以上混合複貫井智一・堀池由紀子組(東京)、55才以上男子単江藤正治(熊本)、同複佐田聡・竹之内正人組(福岡)、55才以上女子単菊池葉子(東京)、同複松本美和・山下恵美子組(大阪)、55才以上混合複神代和久・山西智佳子組(富山・愛知)、60才以上男子単管敏明(長崎)、同複佐野明彦・芹澤英彦組(静岡)、60才以上女子単山本邦子(奈良)、同複内藤美智子・梅田眞澄組(神奈川・福岡)、60才以上混合複柳敬三・今津裕美組(東京・埼玉)、65才以上男子単青山伸幸(愛知)、同複浅見初男・青山伸幸組(東京・愛知)、65才以上女子単澄川稔子(兵庫)、同複宮崎美江子・西村孝子組(東京・三重)、65才以上混合複山本秀夫・桶谷千鶴子組(石川)、70才以上男子単歳嶋廣久(熊本)、同複堀明・歳嶋廣久組(熊本)、70才以上女子単桶本百合子(福岡)、同複土庵清子・石井伸子組(奈良・山口)、70才以上混合複近藤繁・室田光枝組(千葉・埼玉)、75才以上男子単廣田彰(宮崎)、同複小山包博・小川昌之組(神奈川)、75才以上女子単山本しず子(愛知)、同複山本しず子・中村聡子組(愛知・高知)、75才以上混合複吉田邦男・中村聡子組(福島・高知)、80才以上男子単中西久昌(兵庫)、同複後藤正和・小川揚之輔組(神奈川)、80才以上女子単小川末子(福岡)、同複大塚かつ江・村田勝子組(埼玉・千葉)、80才以上混合複小川揚之輔・成川睿子組(神奈川)、競技役員延2,295名。

(13) 平成30年第72回全日本総合バドミントン選手権大会

11月27日から12月2日までの6日間、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で男子単54名、同複51組、女子単55名、同複54組、混合複41組、実人員401名の参加で開催。優勝者は男子単桃田賢斗(NTT 東日本)、同複園田啓悟・嘉村健士組(トナミ運輸)、女子単山口茜(再春館製薬)、同複福島由紀・廣田彩花組(岐阜トリッキーパンダース)、混合複渡辺勇大・東野有紗組(日本ユニシス)、競技役員延1,800名。

(14) 日本マスターズ2018バドミントン競技会

公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、9月15日から9月17日までの3日間、江別市民体育館で開催予定であったが、北海道胆振東部地震のため中止。

(15) 第73回国民体育大会バドミントン競技会

公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、10月5日から10月8日までの4日間、勝山市体育館ジオアリーナで、成年男子47団体、成年女子16団体、少年男子16団体、少年女子32団体、実人員206名の参加で開催。優勝者は成年男子の部富山県、成年女子の部秋田県、少年男子の部埼玉県、少年女子の部埼玉県、競技役員延307名。

5. バドミントンに関する国際競技会

(1) ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2018

9月11日から9月16日までの6日間武蔵野の森総合スポーツプラザで、男子単32名、同複32組、女子単32名、同複26組、混合複29組、実人員247名(日本選手36名、外国選手211名)の参加で開催。優勝者は男子単桃田賢斗(日本)、同複マルクスフェルナンディギデオン・ケビンサンジャヤスカムルジョ組(インドネシア)、女子単キャロリーナマリリン(スペイン)、同複福島由紀・廣田彩花組(日本)、同混合複ジェンシーウェイ・ファンヤチオン組(中国)、競技役員延約1,500名。

(2) ヨネックス大阪インターナショナルチャレンジ2018

4月4日から4月8日までの5日間、守口市民体育館で、男子単46名、同複33組、女子単40名、同複26組、混合複32組、実人員269名(日本選手142名、外国選手127名)の参加で開催。優勝者は男子単五十嵐優(日本)、同複橋本博且&佐伯祐行組(日本)、女子単峰歩美(日本)、同複福万尚子&與猶くるみ組(日本)、同混合複キム・ウンホ&イ・ユリン組(韓国)、競技役員延700名。

(3) ヨネックス秋田マスターズ 2018 バドミントン選手権大会

7月24日から7月29日までの6日間 CNA アリーナ★あきたで、男子単45名、同複27組、女子単36名、同複28組、混合複31組、実人数196名(日本選手70名、外国選手126名)の参加で開催。優勝者は男子単 SitthikomThammasin (THA)、同複 AkbarBintangCahyono・MohRezaPahlevilsfahani 組 (INA)、女子単高橋沙也加(JPN)、同複櫻本絢子・高畑祐紀子組 (JPN)、混合複権藤公平・栗原文音組 (JPN)。競技役員延べ1,518名。

(4) ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2017

10月24日から10月28日までの5日間、エディオンアリーナ大阪(大阪府立体育会館)他1会場で、韓国他を迎え、トーナメント戦で実施し、約2,000名の参加で開催。優勝者はAゾーン YONEX (日本)、Bゾーン Chinese Taipei A(台北)、Cゾーン Chinese Taipei B(台北)、Dゾーン Chinese Taipei F(台北)、Eゾーン四日市クラブ B(三重)、Fゾーンオールド(大阪)、Gゾーンきらり東京(東京)、Hゾーンフラワーズ(東京)、Jゾーンミックス75愛知(愛知)が優勝し、国際親善への普及と発展に成果を収めた。競技役員延約700名。

(5) 日韓ナショナル交流競技会

5月4日から6日まで、富山県高岡市で、団長銭谷欽治他役員7名、選手男女各10名で、韓国団長 PARK Ki Hyun 他役員5名、選手男子9名女子8名を迎え開催。成績は男子団体2勝0敗。女子団体0勝2敗。

(6) 日・韓高校生交流競技会

5月14日から19日までの6日間、韓国・瑞山市で、団長長谷川博幸他役員2名、選手男女各8名派遣。成績は男子団体0勝2敗。女子団体0勝2敗。混合団体1勝1敗。11月21日から26日まで6日間、京都府長岡京市・木津川市で、団長長谷川博幸他役員2名、男子8名女子7名で、韓国監督 KIM Hak Kyun 他役員3名、選手男女各8名を迎え開催。成績は男子団体戦3勝0敗。女子団体戦3勝0敗。

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

(1) トマス杯・ユーバー杯

5月16日から5月28日までの13日間、タイ・バンコク市へ団長上松芳則他役員12名、選手男女各10名を派遣。成績はトマス杯準優勝、ユーバー杯優勝。

(2) 世界選手権大会2018

7月27日から8月6日までの11日間、中国・南京市へ団長上松芳則他役員11名、選手男子11名女子13名を派遣。成績は、男子シングルス優勝 桃田賢斗、女子シングルス3位 山口茜、男子ダブルス準優勝 嘉村健士・園田啓吾、女子ダブルス優勝 永原和可那・松本麻友佑、準優勝 福島由紀・廣田彩花、3位 米元小春・田中志穂。

(3) 第18回アジア競技大会

8月20日から9月2日までの14日間、インドネシア・ジャカルタへ監督朴柱奉他役員6名、選手男女各10名を派遣。成績は、男子団体3位、女子団体優勝、男子シングルス3位 西本拳太、女子シングルス3位 山口茜、女子ダブルス準優勝 高橋礼華・松友美佐紀、3位 福島由紀・廣田彩花。

(4) 第26回日・韓・中ジュニア交流競技会

8月23日から8月29日までの7日間、韓国・麗水市へ協会代表飯田武司他役員2名、男女各6名を派遣。成績は、男子団体1勝2敗、女子団体1勝2敗。

(5) 世界ジュニア選手権大会2018

11月1日から11月20日までの20日間、カナダ・マーカム市で団長田部井秀郎他役員7名、選手男子9名女子10名を派遣。成績は、男女混合団体戦3位、男子シングルス準優勝 奈良岡功大。

7. バドミントンの競技力の向上

(1) スポーツ医科学研究

JISS、JSC等と連携し、バドミントン選手の合宿時のエネルギー消費量測定と体組成測定を実施し、国際競技力向上のためのメディカルサポートシステム、トレーニング対策やメカニズムを明確にしていくとともに、競技者のコンディション評価に役立て競技力向上を図った。

(2) アンチドーピング対策

JADA(公益財団法人日本アンチドーピング機構)との協力により「日本ドーピング防止規程」によりドーピング検査を実施し、アンチドーピング対策を実施した。また、各種大会においてアンチドーピング啓発を行った。

(3) 選手強化

本年度は、世界選手権大会をはじめとする主要国際大会でのメダル獲得を重点目標として、ナショナルトレーニングセンターの有効活用や、国際大会への派遣を行い、ナショナルチームのより一層の選手強化を図った。結果として、世界選手権大会男子シングルス、女子ダブルス優勝や主要国際大会での活躍に現れた。また、ジュニア層においても引き続き小中高一貫指導により競技力向上を図り、次代のオリンピック、世界選手権大会等に備え、有望選手を発掘し、合宿及び小中高の海外交流を実施、国際大会に派遣する等選手強化体制の充実に努め、世界ジュニアバドミントン選手権男子シングルス準優勝等好成績を上げた。

(4) 競技用具補助

競技技術の向上を図るため国際競技会出場選手に対し、競技用具を補助した。